



八王子城跡御主殿内部発見遺構



八王子城跡御主殿内部発見遺構



八王子城跡御主殿内部調査風景

### 平成三年（一九九一）度御主殿遺構確認調査

今後の整備の中心となる御主殿内部の遺構の分布や遺存状態を知るための調査を実施しました。昭和六二年（一九八七）度の試掘調査を元に、御主殿中央部に調査区を設定しました。南部は約三〇cmほどで焼けた硬化面に達し、礎石や列石などの遺構を確認できましたが、北部は徐々に覆土が厚くなり、最奥部は三m近く堆積していました。覆土は礫や山砂利を多く含む褐色土で、遺物の混入がみられない自然の土でした。これは、御主殿の平坦面を造成した際に、北側に残された部分が落城後に崩落したものと考えられます。

遺物は約一八〇〇点出土し、国産陶器や常滑の大甕、鉄釘、銅製飾り金具などが出土しました。

今回の試掘調査で明らかになったのは、予想以上に遺構・遺物の遺存状態が良いこと、落城時の火災によってかなり被熱していること、そのため、戦国期の遺物を含む土層は炭や焼土が主で、それより上の層からは遺物が出土しないこと、御主殿北部は崩落土によってかなり厚く覆われていることなどでした。また、後世の遺構の重複や攪乱による影響もほとんど認められませんでした。これらのことは、今後御主殿の全面を発掘調査する際の遺物の量や排土量を知る上で大変参考になったと言えるでしょう。

これを基に、来年度から二カ年の予定で、御主殿の全面調査の計画が立てられました。